



健闘を祈念して「がんばろう三唱」



決意表明を述べた池畑さん



出品者を激励する市長

「全共」出品者を激励

8月9日、市役所で「全共」出品者の激励会が開催され、出品者やその家族をはじめ、行政議会関係者が出席しました。会の中で、中西市長は、「これまでの皆さんの努力に敬意を表したい。今回の『全共』は、鹿児島県の日本一奪還はもちろんだが、鹿屋市の出品者の日頃の努力の成果が出ることを期待している。先日、皆さんの農場を訪問したが、牛に愛情をそそぎ、大事に育てているのを目の当たりにし、感銘を受けた。当日は最高の状態に仕上げ、臨んでいただきたい」と、出品者を激励しました。

この後、出品者を代表し、第7区総合評価群（種牛群）に出品する池畑義人さんが、「この度は鹿屋市から7頭が『全共』に出品することになった。これもひとえに、行政や農協など関係者の方々のご協力があったからこそだと感謝している。『全共』まで約1か月、まだまだ暑い日が続くが、牛をばてさせずに、本番まで最高の状態で持っていきたい」と、決意表明を熱く述べました。



全国和牛能力共進会に鹿屋市から7頭が出品

9月7日(木)から11日(月)にかけて、宮城県で「第11回全国和牛能力共進会」(通称「全共」)が開催されます。5年に1度開催される「全共」は「和牛のオリンピック」と呼ばれ、和牛の能力と斉一性の向上を目指して、全国の和牛が改良の成果を競う大会です。

同共進会に鹿屋市からは、鹿児島県内の自治体

で最も多い7頭が出品され、6個人1団体が出品者として出場します。今回は「全共」に挑む出品牛・出品者の皆さんの紹介とともに、出品者の「全共」にける思いなどを語っていただきました。

市民の皆さんの応援をお願いします！

鹿屋市畜産課(2階) ☎0994-31-1118

「第11回全国和牛能力共進会 宮城大会」

大会テーマ：「高めよう生産力 伝えよう和牛力 明日へつなぐ和牛生産」
出品頭数：種牛の部330頭、肉牛の部183頭、合計513頭 参加道府県：39道府県



「ななみ」と、右から森義之専務、羽富常務、倉富さん

第2区若雌の1

農事組合法人
森ファーム組合
(輝北町上百引)

名号：ななみ
生年月日：H28.5.5
父：隆之国
母：みきこ
(原1414335)
母の父：百合茂
母の祖父：神高福

正直、「全共」出品に驚いています。気を付けてきたことは、病気をさせないことです。体調管理をしながら、しっかり腹づくりをしてきました。輝北はJAそお管内ですが、県の予選会でJA肝属管内の方々の一致団結している姿を見て、今回、皆さんと共に切磋琢磨していけば、日本一になれるのではないかと期待を持ちました。鹿児島黒牛の底力を見せて、鹿児島県の日本一奪還に貢献できればと思っています。



県最終予選会の審査の様子

鹿屋市は県内最多の出品
7月29日・30日、霧島市の始良中央家畜市場で、「第66回鹿児島県畜産共進会・第11回全国和牛能力共進会鹿児島県最終予選会」が開催されました。これは、県内10地区の予選会で選ばれた種牛の部の牛113頭から、「全共」出品牛を選抜するために行われたもの。鹿屋市からは第1区若雄、第2区若雌の1、第5区繁殖雌牛群、第7区総合評価群(種牛群)、復興特別区高校生の部に、計18頭が出品されました。

最終予選会では、出品区ごとに、体高や栄養度、体積、品位、資質等が審査され、その結果、「全共」に出品する県代表牛として22頭が決まり、そのうち鹿屋市から6頭(5個人1団体)が選ばれました。また、肉牛の部は、事前の巡回審査で、県内8地区76頭から8頭が選ばれ、そのうち鹿屋市から1頭(1個人)が選ばれました。

日本一奪還へ向けて

「全国和牛能力共進会」は、昭和41年に岡山県で初開催され、今回は11回目となります。鹿児島県は、第8回大会では、農林水産大臣賞を6部門で獲得するなど、日本一と言える成績を収めました。第9回から創設された「団体賞」では、宮崎県が優勝、続く第10回も宮崎県に連覇を許しました。5年後の第12回大会は鹿児島県での開催。「鹿児島全共」の弾みにしたいと、今回の「宮城全共」で鹿児島県の団体優勝が期待されています。